

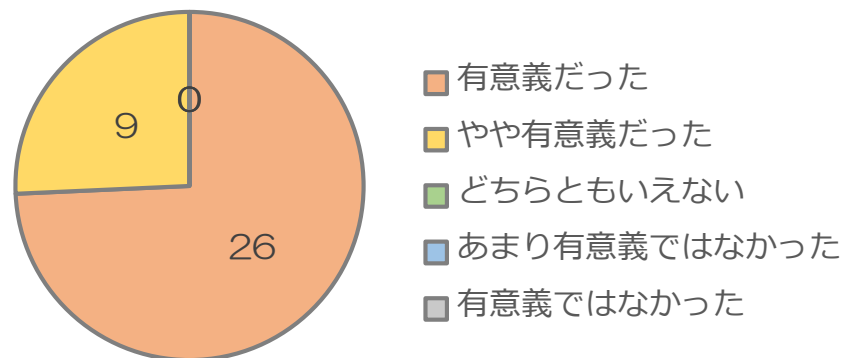
東京都伊豆諸島6火山防災協議会連携シンポジウム 事後アンケート結果

1 シンポジウム全体について

- 全ての回答がシンポジウムについて有意義もしくはやや有意義であったと回答
- 内容の理解度も同様に高く、東京都の火山防災の取組として重要であるという幅広い支持
- シンポジウムの時間が冗長である、質疑応答の時間をもう少し確保してほしいという意見もあり。

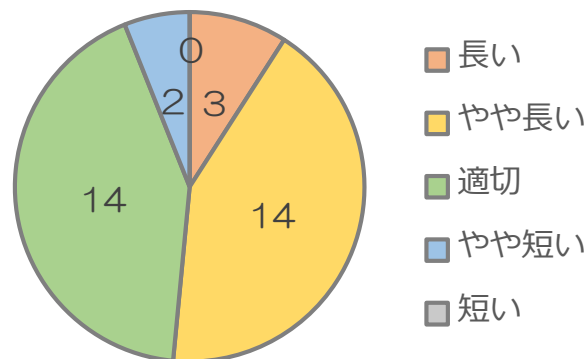
(1) シンポジウムは有意義でしたか。

	有効回答数	
1 有意義だった	26 (74%)	
2 やや有意義だった	9 (26%)	
3 どちらともいえない	0 (0%)	
4 あまり有意義ではなかった	0 (0%)	
5 有意義ではなかった	0 (0%)	



(2) シンポジウムの時間は適切でしたか。

	有効回答数	
1 長い	3 (9%)	
2 やや長い	14 (42.5%)	
3 適切	14 (42.5%)	
4 やや短い	2 (6%)	
5 短い	0 (0%)	



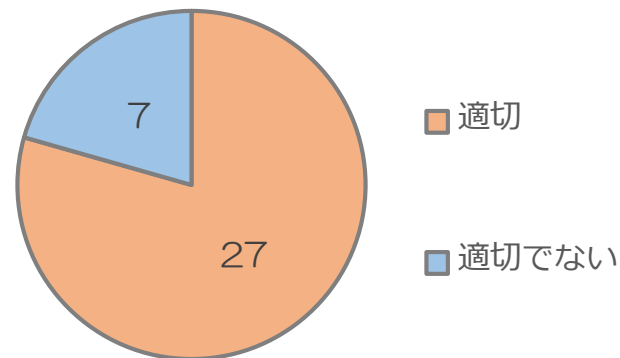
(3) シンポジウムの時間や配分についてご意見があれば自由にご記入ください。

- ・ パネルディスカッションがもう少し長くてもよいのではないか。
- ・ 質疑応答、意見交換の時間がもう少し確保してほしい。
- ・ 要点を絞ってもう少しコンパクトにしてくれた方が集中できる。

1 シンポジウム全体について

(4-1) オンライン開催とさせていただきましたが、この方法は適切でしたか。

	有効回答数	
1 適切	27	(79%)
2 適切でない	7	(21%)

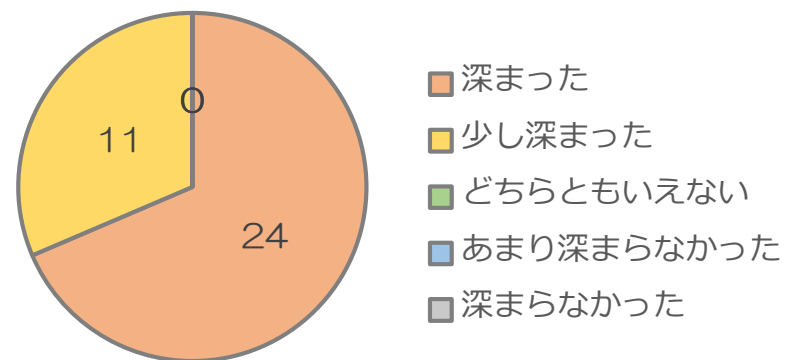


(4-2) 「2 適切でない」を選んだ方は、どのような開催方式を希望しますか。

- ・オンラインではより踏み込んだ内容の議論が難しい。
- ・オンラインなのはよいが、回線が悪いことがあったため、配信方式などを工夫してほしい。

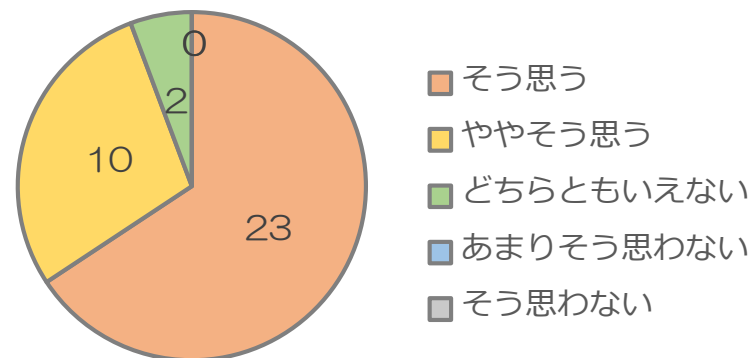
(5) シンポジウムに参加して火山防災に関する理解は深まりましたか。

	有効回答数	
1 深まった	24	(69%)
2 少し深まった	11	(31%)
3 どちらともいえない	0	(0%)
4 あまり深まらなかった	0	(0%)
5 深まらなかった	0	(0%)



(6) シンポジウムは火山防災力の向上及び火山防災協議会の連携強化に寄与する取組だと思いませんか。

	有効回答数	
1 そう思う	23	(66%)
2 ややそう思う	10	(28%)
3 どちらともいえない	2	(6%)
4 あまりそう思わない	0	(0%)
5 そう思わない	0	(0%)



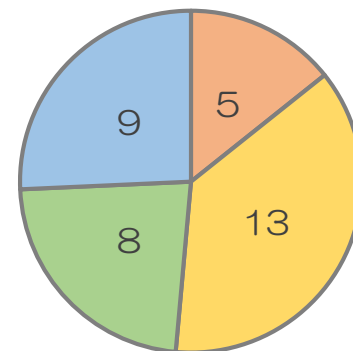
2 講演について

○ 各講演とも、概ね均等に支持があり、参加者が火山防災全般に対し幅広く興味を有している。

(1) 各講演で最も興味深かったのはどれでしたか。

有効回答数 35

- | | | |
|---|--|----------|
| 1 | 東京都における火山防災対策
(東京都総務局総合防災部) | 5 (14%) |
| 2 | 火山噴火の現場における情報発信者と
住民の関係性について
(東京都防災専門員 宇平幸一) | 13 (37%) |
| 3 | 「平時の普及啓発」
～住民への周知活動における方法と課題～
(大島町防災対策室長 鶴崎浩人) | 8 (23%) |
| 4 | 普賢岳噴火における初期対応
(雲仙岳災害記念館館長 杉本伸一) | 9 (26%) |

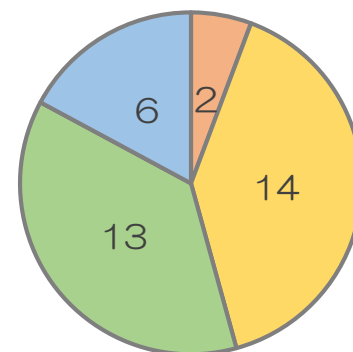


- 東京都における火山防災対策
- 火山噴火の現場における情報発信者と住民の関係性について
- 「平時の普及啓発」～住民への周知活動における方法と課題～
- 普賢岳噴火における初期対応

(2) 各講演のうち、今後火山防災対策に取り組む上で最も参考になると感じたものはどれでしたか。

有効回答数 35

- | | | |
|---|----------------------------------|----------|
| 1 | 東京都における火山防災対策 | 2 (6%) |
| 2 | 火山噴火の現場における情報発信者と
住民の関係性について | 14 (40%) |
| 3 | 「平時の普及啓発」
～住民への周知活動における方法と課題～ | 13 (37%) |
| 4 | 普賢岳噴火における初期対応 | 6 (17%) |



- 東京都における火山防災対策
- 火山噴火の現場における情報発信者と住民の関係性について
- 「平時の普及啓発」～住民への周知活動における方法と課題～
- 普賢岳噴火における初期対応

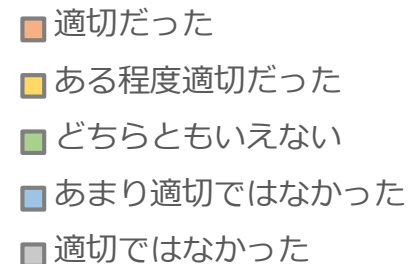
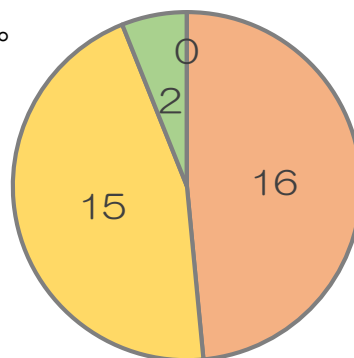
3 パネルディスカッションについて

- 事前に募集した参加者からの意見を元にテーマを設定したこともあり、パネルディスカッションについてはテーマ設定、内容ともに多くの支持
- 自由意見ではより具体的で伊豆諸島の実情に即した議論を行ってほしいという意見あり。

(1) パネルディスカッションのテーマ選択は適切でしたか。

有効回答数 33

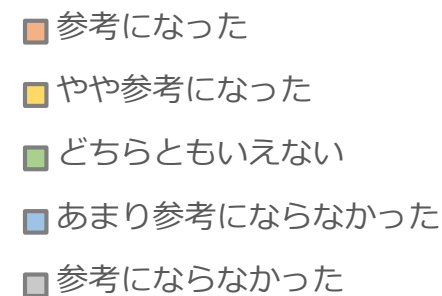
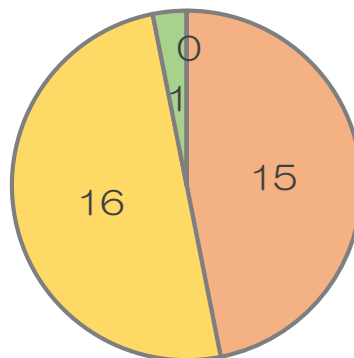
1	適切だった	16	(49%)
2	ある程度適切だった	15	(45%)
3	どちらともいえない	2	(6%)
4	あまり適切ではなかった	0	(0%)
5	適切ではなかった	0	(0%)



(2) パネルディスカッションの内容は今後、火山防災に取り組む上で参考になりましたか。

有効回答数 32

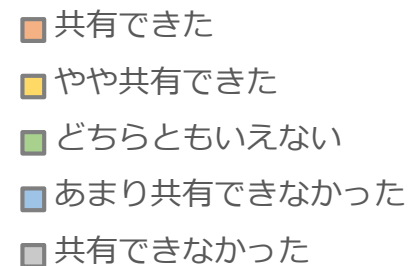
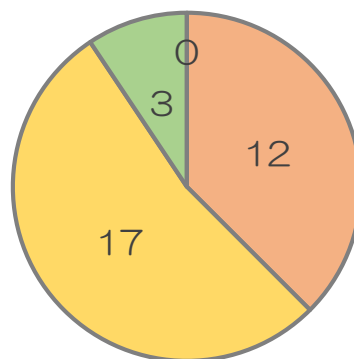
1	参考になった	15	(47%)
2	やや参考になった	16	(50%)
3	どちらともいえない	1	(1%)
4	あまり参考にならなかった	0	(0%)
5	参考にならなかった	0	(0%)



(3) パネルディスカッションを経て、伊豆諸島の火山防災の現状と課題を共有できましたか。

有効回答数 32

1	共有できた	12	(38%)
2	やや共有できた	17	(53%)
3	どちらともいえない	3	(9%)
4	あまり共有できなかった	0	(0%)
5	共有できなかった	0	(0%)



4 2 講演についての質問等

(3) 講演内容について質問がありましたらお願いいたします。

Q.火山防災に専門家はどのように関わるのか、教えてほしい。

A. 火山避難計画には緊急時の緊迫度に応じて町村が専門家の助言を参考にできる仕組みが明記されている。東京都の6火山防災協議会は、都の防災顧問、防災専門員を含めて9名の火山専門家に委員を依頼している。

この人数は他自治体の火山防災協議会と比しても多く、東京都は幅広い専門的見地を伺える、恵まれた立ち位置にいると言える。緊急時に限らず、平時には本シンポジウムのような会合で協議会委員の専門家と情報交換の場を積極的に設けることが重要といえる。

5 3 パネルディスカッションについての質問等

(4) パネルディスカッションの内容について、ご質問やご感想があればお願いいたします。

- ・噴火の兆候をどうやって捉えるのか、もう少し聞いてみたかった。
- ・各講演内容とパネルディスカッションのテーマの関係をより具体的にした方が、具体的な議論が可能だと思う。
- ・各島の実情がより分かるような内容の議論を行い、他の島と連携し各島ごとに対応策を協議することが必要
- ・火山防災に精通している人材が身近に少ないため、講師の方々による貴重な講話は大変参考になった。

6 今後について

- 次回以降シンポジウムを開催する際は100%が参加希望と回答
- 取り上げてほしいテーマは、火山防災についてあらゆる視点から幅広い支持が集まった。
- 開催形式については、島しょ部という立地を加味し、多くがオンライン開催のままと支持
- 一方で対面形式の利点を挙げる声や通信状況の改善を望む声もあり

(1) 次回のシンポジウムがあった場合参加したいですか。

有効回答数 35

1 参加したい	35 (100%)
2 参加したくない	0 (0%)

(2) 次回以降取り上げてほしいテーマはありますか。

- ・ 島外避難と避難後の生活、被災者に対する支援等について
- ・ 伊豆諸島住民の火山防災に関する認知度について。特に近年噴火のあった伊豆大島、三宅島と、それ以外の近年噴火のない島の意識の違い等。
- ・ 伊豆諸島各火山の現在の活動状況と、今後の火山防災対策方針について
- ・ 発災時の具体的な対応、各機関の連携、火山専門家を交えた共同検討体制について
- ・ 火山防災活動に若い世代を取り込む活動について
- ・ 警察や自衛隊、海上保安庁、消防等の関係機関における発災時の備えについて

(3) 次回以降の開催方法等にご意見があればお願いいたします。

- ・ 島しょ職員は内地の会場まで出向くのが難しいため、オンライン開催が適切
- ・ オンラインだと気軽に参加できるため、今後も積極的に取り入れて欲しい。
- ・ 講演者やパネリストは一か所に集まる等、オンライン形式と対面形式を併用してはどうか。
- ・ 対面形式の方がより具体的で踏み込んだ内容の議論ができるため、その形式での開催を望む。
- ・ 講演数を絞り、質疑応答や意見交換の時間をもっと増やした形にしてほしい。
- ・ オンラインによる議論の可能な他アプリの使用も検討してほしい。
- ・ オンライン開催を指示するが、雑音等で聞き取り難い場面もあったため、その辺りの改善を希望する。

- 多くの方が火山防災に関する議論や情報共有の場は必要であると感じており、また、島しょという実情に即した問題提起を望む声も多かった。
- 火山防災協議会の連携強化に関しては、定期的な会合やこのシンポジウムのような取組の繰り返しが重要といった意見があった。

(1) 上記以外に本シンポジウムについてご意見はありますか。

- ・ 今後開かれる場合には、課題解決に向けより系統的なテーマ選択を行ってほしい。
- ・ 今回は伊豆大島の火山防災対策の工夫を伺い知ることができたが、他の島々の状況についても知りたい。
- ・ 個人でもできる防災対策などの話も取り入れて欲しい。
- ・ シンポジウムや本アンケートについて成果を還元することが大事だと考える。
- ・ より具体的で、実情に即した議論を引き出すため、少人数、例えば各島の担当者のみで行うディスカッションなどを実施するのはいかがか。
- ・ 継続することで火山防災協議会関係者間での理解が深まるので、引き続きこのような取組をお願いしたい。
- ・ 離島火山は特殊な課題が多いので、今後もぜひ続けていただきたい。

(2) 火山防災協議会の横の繋がりを強化していくための取組へのご意見はありますか。

- ・ 各火山島で抱えている課題を共有し、解決方法を議論し、成果を共有する取り組みが必要
- ・ 実際に噴火が始まったらどの様に協議会が噴火に対応していくのか、より具体的なシナリオを整備する必要がある。
- ・ 普段から情報共有の場を定期的に持つことが重要
- ・ 他自治体と合同のシンポジウムを開催するのもよいかもしれない。
- ・ 素早い連絡網の構築、情報開示とその情報から正しい判断のできる人材や各機関連携の強化
- ・ 今回のシンポジウムのような取組を繰り返すことで、いざという時の繋がりが構築できる。
- ・ 各火山の現地視察
- ・ 定期的な会合を開催し、各機関が現状を共有することが重要である。